

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 4月16日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009年度～2011年度

課題番号：21520455

研究課題名（和文） インドネシア・スラウェシ島南西部諸言語のデータベース構築

研究課題名（英文） Developing Database of Languages in Southeastern Sulawesi in Indonesia

研究代表者

山口 真佐夫 (Yamaguchi Masao)

摂南大学・外国語学部・外国語学科・教授

研究者番号：00191239

研究成果の概要（和文）：

インドネシア共和国スラウェシ島南西部には多くの言語が分布している。そして、その多くの言語が消滅の危機に瀕している。本研究は、それらの諸言語の資料、研究成果の収集を行い、またこれまでに収集された資料のデータベース化を目的としたものである。それらの言語の現地で行われた調査結果、現地出版物等をまとめることは、今後の研究促進に役立つ。成果は、論文、研究発表、書籍として発表した。

研究成果の概要（英文）：

There are lots of languages spoken in the southwest area of Sulawesi Island in the Republic of Indonesia, and many of them are in danger of extinction. The present study is aimed at collecting research achievements and materials of those endangered languages and assembling a database from the linguistic data collected by now. Findings from the field investigation and the local publication on the languages are all utilized to promote future study of these languages. Some of the results have been published in my papers, presentations and books.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：危機・少数言語

1. 研究開始当初の背景

インドネシア共和国のスラウェシ島南西部には、研究者によって見解の相違があるが、南スラウェシ語群、カイリ・パモナ語群、ムナ・プトン語群、ブンク・モリ語群等に属する30から40ほどの言語及びマレー語マカッサル方言等が分布している。そして、本格的

な言語研究はオランダ人の B.F. Matthes によって始められる。その研究はブギス語（話者数350万人以上）、マカッサル語（160万人以上）という大言語が対象であった。なお、19世紀末から20世紀初頭にかけて K.F. Holle のリストに基づく約1,500語彙（一部短文を含む）が全インドネシアで収集された。

しかし、本研究の対象地域に関しては、話者数第2位のマカッサル語、第3位のサッダン・トラジャ語（話者数 50 万人以上）、第4位のマンダル語（話者数 20 万人以上）ないしはそれらの方言等が収録されているだけである。さらに、記録の正確度においても問題がある場合が散見される。

その後も調査・研究は、上位4言語や比較的現地調査が行いやすい地域の言語研究が中心であった。1980年代に入り当時の南スラウェシ州（現西スラウェシ州も含む）の39の言語（方言も含まれるので実際は約20言語）に対するC.E. Grimesの研究が現れたが、語彙統計学によるものであったので収録語彙数は各202語であった。2000年代に入り、インドネシアの国立言語研究所による25地点の言語資料が公刊されたが、語彙数は200語である。なお、D.T. Tryon編の大部の*Comparative Austronesian Dictionary*があるが、当該地域の言語で収録されているのはブギス語およびマカッサル語の方言である可能性が高い（海岸）コンジョ語だけである。以上のように、スラウェシ島南西部の言語研究を行うに当たっては、十分な言語資料がない状態である。

本研究の研究代表者は、これまでにスラウェシ島南西部に分布する南スラウェシ語群の言語を中心に、約25年間比較言語学上の研究を行ってきた。しかし、用いることができる言語資料（辞書、文法書等）が完備した言語は、ブギス語、マカッサル語、サッダン・トラジャ語、マンダル語であった。より精緻な比較言語学上の研究を行うためには上記4言語以外の資料が必要であることを痛感していた。

上記の問題を解決するため、これまでに科学研究費補助金等によりまだ言語資料が充分でない言語、あるいは全く言語資料がない中規模、小規模の言語の資料を収集したが、この中には、世界の言語の話者規模における中央値訳6,000人以下の危機・少数言語の資料も含まれている。なお、これまでに収集した資料は、以下の二種に分類できる。

- (1) 現地調査によって収集された言語資料
- (2) 言語関係を中心とした現地で出版された文献資料

これらの資料については、今後研究を進展させていくために問題がある。(1)の資料については、手書きのもの、電子媒体に入力されているがミスタイプが散見されるもの、表記の不統一、等々である。(2)についても、特に現地研究機関から発行されたものは、直接訪れなければ資料の存在すら判らないという問題がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまでに収集した言語資料のデータ化、近年増えている現地研究機関の成果を含めたビブリオグラフィーの編纂、現地研究者の最新の研究成果を集めた研究資料の発行である。

(1) 言語資料のデータ化

これまでに研究代表者が現地調査等で収集した言語資料は、言語学上の研究、特に比較言語学、形態論のために有用な資料であり、これまで十分な研究資料がなかった、あるいは全くなかった中・小規模の言語のものである。その中から可能なものを出版、デジタル化する。

(2) ビブリオグラフィーの編纂

スラウェシ島の言語に関する文献資料については、1991年のJ. Noorduynによるスラウェシ全体についてのものがある。しかし、出版後すでに年月を経ていること、南スラウェシ州の州都マカッサルにある現地研究機関の研究成果が増えていること等から、その後の研究を加えたビブリオグラフィーが必要であった。スラウェシ島南西部の言語について、研究代表者は、現地研究者及び日本人研究者とともにJ. Noorduynの業績に対する追補を、2002年に地元マカッサルの国立ハサスツェディン大学大学院の雑誌の（研究代表者が編集した）特別号として発表した。しかし、2000年に開設された中スラウェシ州の州都パルの言語研究機関、2004年に開設された東南スラウェシ州の州都クダリの言語研究機関の刊行物に多くの収録もれが考えられる。これらの未収録文献資料も加え、より充実したスラウェシ島南西部の言語に関する文献資料をまとめる必要がある。特に、現地諸研究機関が（独自に）刊行した研究資料の収集は、重要な作業となる。これらのものをまとめたビブリオグラフィーの編纂を行う。

(3) 現地研究者の最新の研究成果を集めた研究資料の発行

テーマを定めて、現地研究者による論文を集め論集を出版すること。このことは、現地研究者による研究成果を集めるだけでなく、現地研究者の研究意欲を引き出すことも目的である。

3. 研究の方法

各内容に応じて、以下のような方法で研究を進めた。

(1) 言語資料のデータ化

以前の科学研究費補助金で収集した南スラウェシ州に分布するマッセンプル語3方言の資料を整理し、3方言併記の文法書を編

纂する。また、同言語の録音資料を編集し電子化する。

(2) ビブリオグラフィーの編纂

南スラウェシ州、中スラウェシ州、東南スラウェシ州の各言語研究機関、州立図書館、大学、研究者を訪問し、これまでに収集できなかった文献についての調査を行う。確認できたものを加えビブリオグラフィーを編纂する。

(3) 現地研究者の最新の研究成果を集めた研究資料の発行

設定した(本研究と関連する)テーマに基づき、現地研究者に論文を執筆してもらい、論集として発行する。当該地域の「言語研究の現状」、「少数言語の将来」をテーマとした。

上記の(1)～(3)は現地への成果還元を考慮し、原則としてインドネシア語で発表する。

4. 研究成果

本研究の成果を年度別に説明する。また、研究全体の総括も行う。

(1) 平成 21 年度

海外出張による資料収集に基づき論文執筆、研究発表、図書発行を行った。

①インドネシアの南スラウェシ州、中スラウェシ州、マレーシアのクアラ・ルンブール、(南スラウェシ出身のブギス人がかつて王国を建てた)スランゴール州において言語調査状況の調査、文献資料の調査・収集を行った。

②おもな研究成果として、南スラウェシの言語研究状況を研究代表者、研究協力者、現地研究者とともに論じた *Penelitian Bahasa Daerah di Sulawesi Selatan dan Sekitarnya* (「南スラウェシ州およびその周辺の地域語研究」) を出版する。

研究代表者の「インドネシア共和国スラウェシ島南西部の言語」、研究協力者(山口玲子)の「インドネシア共和国南スラウェシ州および中部スラウェシ州の言語研究所—その歴史と現状—」が、池田哲郎編『言語と文化の接触』に載録された。

(2) 平成 22 年度

海外出張による資料収集に基づき論文執筆、研究発表、図書発行を行った。

①インドネシアの南スラウェシ州、中スラウェシ州、東南スラウェシ州、マレーシアのク

アラ・ルンブール、(南スラウェシからの移住者が存在する可能性のある)サラワク州において言語調査状況の調査、文献資料の調査・収集を行った。

今回は特に、南スラウェシ州、東南スラウェシ州において地元図書館に所蔵されている文献を調査した。特に東南スラウェシ州の州都にある、東南スラウェシ州立図書館では貴重な文献の確認ができた。マレーシアのサラワク州において、大学、図書館で文献調査を行った。クアラ・ルンブールでは国立図書館を訪れ、マレーシアにおける言語調査の情報を得ることができた。

②おもな研究成果としては、論文執筆、学会を公表した。学会発表の中には、東南スラウェシ州のバウバウ市で行われた「東南スラウェシ州の地域語国際学会」に招聘され発表を行ったことも含まれる。

本研究の目的の一つである、これまでに科学研究費補助金で収集した資料の整理・公表として、新たに関連論文二本も加え *Tata Bahasa Kontrastif Bahasa Massenrempulu* (「マッセンレンプル語の対照文法」) の出版を行った。この文法書はマッセンレンプル語が使われている南スラウェシ州エンレカン県に送り、現地への成果還元を果たすことができた。

(3) 平成 23 年度

海外出張による資料収集に基づき論文執筆、研究発表、図書発行を行った。

①マレーシアの(南スラウェシ、西スラウェシ、東南スラウェシからの移住者が多くいる)サバ州、クアラ・ルンブール、インドネシアの首都ジャカルタ、南スラウェシ州のマカッサルにおいて言語調査状況の調査、文献資料の調査・収集を行った。マレーシアのサバ州のコタ・キナバルでは、マレーシア・サバ大学で南スラウェシからの移住者について貴重な情報を手に入れることができた。

②おもな研究成果としては、本研究の重要な目的の一つである近年の研究、特に現地研究機関によるものを含めたビブリオグラフィー *Penelitian Bahasa Daerah Pulau Sulawesi Bagian Selatan di Indonesia* (「インドネシアにおけるスラウェシ島南部の言語研究」) を出版した。

論集としては、少数言語の今後をテーマとした日本、インドネシアのみならず、マレーシア、韓国の研究者の論文も集めた論集 *Aspek-aspek Bahasa Daerah di Sulawesi Bagian Selatan* (「スラウェシ島南部諸言語の諸相」) を編纂した。なお、マッセンレンプル語の音声資料の電子化も行った。

(4) 総括

3年間の研究機関を通して、南スラウェシ島南西部の言語研究状況を調べ、学会発表、論文執筆、図書発行の形で発表してきた。しかし、今回の研究を通していくつか、今後も研究が必要と思われる以下のことが判明した。

①スラウェシ島南西部の言語研究においては、本研究で対象とした南スラウェシ語群、カイリ・パモナ語群、ムナ・ブトン語群、ブク・モリ語群に加えウォトウ・ウォリオ語群の研究も関連すること。

②言語研究機関以外に大学（あるいは各学部）出版の定期刊行物にも多くの本研究と関連する論文が掲載されていること。

③南スラウェシ島の州都マカッサルでは、当該地域の言語、文化、歴史等の出版物が民間出版社から多く出版されるようになってきたこと。

④マレーシアでは、各大学の出版部（あるいは図書館の出版局）から出版されているものの中に関連する出版物があること。

上記のことは今後継続して調査していく必要がある。特に、定期刊行物の古いものは図書館等にも収録されていない場合が多く、今後早い時期に収集する必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①Yamaguchi, Masao, Reduplication in Languages of South Sulawesi、アジア・アフリカの言語と言語学、査読有、第6巻、2012、71-88
- ②山口真佐夫、南スラウェシ語群における接中辞の接頭辞化、言語文化学会論集、査読有、第34号、2010、83-108
- ③山口真佐夫、南スラウェシ語群における反り舌音* d の具現、言語文化学会論集、査読有、第33号、2009、81-100

[学会発表] (計7件)

- ①山口真佐夫、南スラウェシおよびその周辺の言語における重複一特に名詞以外について一、言語文化学会、2011年12月10日、日本工業大学
- ②Yamaguchi, Masao、Bahasa-bahasa Daerah Sulawesi Tenggara dalam Kaitannya dengan Genealogi, Kongres Internasional Bahasa-bahasa Daerah

Sulawesi Tenggara, 2010年7月20日、インドネシア共和国、東南スラウェシ州、バウ・バウ市

- ③山口真佐夫、近年の南スラウェシおよびその周辺部の地方語の研究、インドネシア諸語研究会、2010年3月29日、東京外国語大学

[図書] (計6件)

- ①Yamaguchi, Masao. Hokuto Publishing Inc. *Penelitian Bahasa Daerah Pulau Sulawesi Bagian Selatan di Indonesia*. 2012. xiii + 113
- ②Yamaguchi, Masao (編著). *Tata Bahasa Kontrastif Bahasa Massenrempulu*. 2011. ix + 192
- ③Yamaguchi, Masao. Bahasa-bahasa Daerah Sulawesi Tenggara dalam Kaitannya dengan Genealogi. Kantor Bahasa Provinsi Sulawesi Tenggara. dalam Hanna (ed). *Prosiding Kongres Internasional Bahasa-bahasa Daerah Sulawesi Tenggara*. 2010. xxxi + 440 (74-90)
- ④山口真佐夫、インドネシア共和国スラウェシ島南西部の諸言語、池田哲郎 (編著)、『言語と文化の接触』、2010. x + 90 (19-26)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口 真佐夫 (Yamaguchi Masao)
摂南大学・外国語学部・教授

研究者番号 : 00191239

(2) 研究分担者
()

研究者番号 :

(3) 連携研究者
()

研究者番号 :